

平成 1 2 年度試験研究成果

区分	普及	題名	品種 飼料用とうもろこし中生品種「35G86 (パイオニア 108日)」		
[要約] 飼料用とうもろこし「35G86」は中生の多収品種(乾物収量、TDN収量)である。					
キーワード	とうもろこし	中生品種			畜産研究所飼料生産研究室

1. 背景とねらい

本県には現在、飼料用とうもろこしが6,500haほど作付けされており、栽培されている品種も極早生種～晩生種まで極めて多品種にわたっている。とうもろこしの品種選定にあたっては収量性や倒伏性、耐病性等の他、その地域の気温や標高等を考慮して確実に黄熟期に達する品種を選定することが重要である。しかしながら、実際の生産現場ではその地域の気象条件等に適合しない品種が用いられていることも多く、期待した収量が確保できない等の問題が生じる場合もある。

そこで畜産農家の自給粗飼料の安定生産に資するため、最近の試験成績から本県での高位生産が期待できる飼料用とうもろこし中生品種を紹介する。

2. 技術の内容

(1) 品種の来歴

アメリカで育成された品種でデント×デントの単交配品種。平成9年に地域限定で販売、平成10年より全国販売開始。

(2) 品種特性

ア 雄穂抽出期は標準品種である「XL61」より1日、絹糸抽出期は2日それぞれ早い。また、播種～黄熟期までの所要日数は131日で「XL61」より7日早い。(表1)

イ 形態的特性はかん長、着雌穂高はほぼ「XL61」並である。(表1)

ウ 耐病性では根腐病耐性は標準品種より強く、その他の病害は標準品種とほぼ同程度である。(表2)

エ 乾物収量(特に子実重)、TDN収量ともに「XL61」を凌ぐ。(表3)

オ サイレージ用とうもろこしの総合評価法では3年間連続してAランクである。(表3)

3. 普及上の留意事項

(1) 一代雑種品種であるため、自家採種はできない。

(2) 適正栽植本数は6,500本/10a

(3) 栽培管理についてはこれまでと同様に牧草・飼料作物生産利用指針を基本とすること。

(4) これまで推奨品種であった晩生品種のマイティコーン 8344 (Garst8344) は平成13年度より流通中止となる。

4. 技術の適応地帯

有効積算温度 1250 以上の地域または標高500m以下の地域とする。

5. 当該事項に係る試験研究課題

[草地飼料1] 1-(3)-ア とうもろこし市販品種の特性比較

6. 参考資料・文献

(1) 昭和62年度指導上の参考事項「サイレージ用とうもろこしの総合評価法」

(2) 岩手県農政部「牧草・飼料作物生産利用指針」平成8年3月

(3) 農林水産省技術会議事務局・農林水産省草地試験場

「飼料作物系統適応性検定試験実施要領(改訂4版)」平成11年4月

(4) 岩手県農政部「飼料作物優良品種特性表」平成12年3月

7. 試験成績の概要

(1) 耕種概要 畜産研究所(標高250m)における試験成績

ア 試験場所 滝沢畜産研究所内圃場

イ 播種期 10年:5/15、11年:5/14、12年:5/17

ウ 土壌改良資材 炭カル: pH6.5 矯正量、溶燐: 燐酸吸収係数2%量

エ 施肥量(kg/10a) 窒素15、燐酸18、カリ15

オ 栽植密度(本/10a) 6,504本(畝間75cm×株間20.5cm)

(2) 品種の特性

表1 生育的特性及び形態的特性

品種名	試験年次	播種日からの日数(日)				播種~黄熟期までの所要積算温度(°C)		かん長 (cm)	着雌穂高 (cm)
		発芽期	雄穂抽出	絹糸抽出	黄熟期	有効	単純		
35G86	H10	10	80	80	136	1,318	2,704	277.0	131.0
	H11	12	75	76	125	1,289	2,539	286.0	139.0
	H12	10	70	70	115	1,239	2,387	262.0	115.0
	H10-11 平均	11	78	78	131	1,304	2,622	281.5	135.0
	H10-12 平均	11	75	75	125	1,282	2,543	275.0	128.3
XL61(標)	H10	10	79	83	149	1,377	2,877	281.0	123.0
	H11	13	74	77	126	1,294	2,556	275.0	136.0
	H10-11 平均	12	77	80	138	1,336	2,717	278.0	129.5

XL61は流通中止のため、H12は非供試。

表2 障害及び病害

品種名	試験年次	有効雌穂割合 (%)	倒伏割合 (%)	病害特性					
				すす紋 (1-9)	ごま葉 (1-9)	黒穂病 (%)	根腐病 (%)	紋枯病 (%)	萎縮病 (%)
35G86	H10	98.7	0.0	1.0	1.0	0.8	0.9	0.0	0.5
	H11	100.0	0.0	1.0	1.0	0.9	1.8	0.0	0.9
	H12	96.7	0.0	1.0	1.0	0.8	0.4	1.3	0.8
	H10-11 平均	99.2	0.0	1.0	1.0	0.8	0.9	0.0	0.5
	H10-12 平均	98.3	0.0	1.0	1.0	0.8	0.7	0.4	0.6
XL61(標)	H10	99.1	0.0	1.0	1.0	0.9	10.1	0.4	0.0
	H11	96.7	0.0	1.0	1.0	0.9	6.2	0.0	0.0
	H10-11 平均	97.9	0.0	1.0	1.0	0.9	8.2	0.2	0.0

表3 収量性及び総合評価

品種名	試験年次	生草収量 (kg/10a)	乾物収量				TDN収量 (kg/10a)	総合評価
			雌穂(A) (kg/10a)	総重(B) (kg/10a)	雌穂率 A/B (%)	生産速度 (kg/10a/日)		
35G86	H10	6,769 (83.6)	1,193 (115.0)	2,121 (100.4)	56.2 (114.5)	16.80 (110.5)	1,544 (102.4)	A
	H11	6,195 (84.4)	1,163 (104.8)	2,106 (104.8)	55.2 (100.0)	18.60 (104.5)	1,538 (104.8)	A
	H12	7,255 (100.3)	1,209 (104.3)	2,104 (99.9)	57.5 (104.5)	20.00 (102.6)	1,548 (100.8)	A
	H10-11 平均	6,482 (84.0)	1,178 (109.7)	2,114 (102.5)	55.7 (106.9)	17.85 (108.2)	1,541 (103.6)	
	H10-12 平均	6,740	1,188	2,110	56.3	18.47	1,543	
XL61(標)	H10	8,097 (100.0)	1,037 (100.0)	2,113 (100.0)	49.1 (100.0)	15.20 (100.0)	1,508 (100.0)	
	H11	7,343 (100.0)	1,110 (100.0)	2,010 (100.0)	55.2 (100.0)	17.80 (100.0)	1,468 (100.0)	
	H10-11 平均	7,720 (100.0)	1,074 (100.0)	2,062 (100.0)	52.1 (100.0)	16.50 (100.0)	1,488 (100.0)	
中生品種平均	H12	7,234 (100.0)	1,159 (100.0)	2,106 (100.0)	55.0 (100.0)	19.50 (100.0)	1,536 (100.0)	

()は標準品種または中生品種の平均値に対する比。

H12はXL61非供試のため収量性は供試した全中生品種の平均との比較により評価。